

第 14 回 木曾三川下流域自然再生検討会 議事概要

日時：令和 4 年 2 月 4 日（金）13:30～15:30

場所：木曾川下流河川事務所 1 階会議室および WEB 会議

1. 開会

2. 挨拶（木曾川下流河川事務所長）

3. 議事

1) 規約改正

- ◆ 規約改正について委員からの同意を得た。

2) 現地視察会における主な指摘事項とその対応

<ヨシ原再生について>

- ◆ ヨシ植栽基盤の高さは、自然再生計画書では T.P. +0.8m となっているが、実際にはそれより高く整備されている。経緯を確認しておいた方がよい。
- ◆ ヨシ原整備箇所は堆積よりむしろ波浪等で浸食傾向のようである。また、冠水頻度が 50% を上回ってくると、波浪等での浸食や流出等により植栽率が下がることも考えられる。
- ◆ 長良川ではレジャーボートの走行もあり、風による波浪と合わせて植栽基盤への影響は生じていると思われる。

<ワンド再生について>

- ◆ 砂地を確保すると、ヨシ原の再生や子供の遊び場等の提供に寄与するので、面積を多くとるように整備すると良い。
- ◆ ケレップ水制上のヤナギの侵入に対する抑制の手法として、木酢液や覆土を記載しているが、効果は少ない。ヤナギは非常に繁殖力が強い。
- ◆ ケレップ水制における流況解析について、流量を変えたときに整備によって流れがどうなるのか検討してみてもよい。流量が最大規模でなくても横断方向に入っていく流れがあると考えられる。
- ◆ ワンド内は泥分が多く、強熱減量も高いようである。夏季にはおそらく DO がかなり下がり、日変動も大きいと思われる。連続観測を行うなどもう少し細かく動態を把握し、水循環との関係を考察するべきである。

- ワンドの中には泥が堆積している状況のようである。硫化物も多いため、流れで攪乱を与えて自然に維持管理できるような条件にできると良い。物理条件と場をうまくコントロールできるようにワンドを整備できると良い。
- 樹木は、今後利用も考えて、緑陰として一部残すと良い。

3) 令和3年度モニタリング評価結果

- 令和3年度のモニタリング評価結果について、了承を得た。

4) 自然再生計画変更に向けての今後の予定について

- 長良川の自然再生は、河口堰により湛水域となっている場での新しい自然再生を進めて欲しい。以前は、広大なヨシ原再生を想定していたと思うが、現状では難しいと思う。
- 長良川では沈水植物であるマツモなどの生育が見られており、今後はそのような種を指標にすることも考えられる。
- 木曾三川は伊勢湾の中で最大の汚濁源でもある。自然再生では、再生することだけでなく、保全も含めて積極的に取り組む必要がある。保全については、滋賀県の琵琶湖の取り組みが非常に参考になる。
- 揖斐川、長良川、木曾川各河川によって人為的なインパクトや周辺環境が異なる。全体を俯瞰しながら、三川の将来目標を整理していったほうがよい。
- 河川環境管理シートでは、水質も木曾三川の下流域は塩水遡上もあり、考慮すると良い。また、汽水域にあわせた指標や、どのようなピッチで評価していくかは目的に応じて検討する必要がある。
- 河川環境管理シートは、流域における下流域の位置付けを明確にできる方法で作成、運用する必要がある。

5. 閉会（木曾川下流河川事務所長）

以上